

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	富山県	市町村名	高岡市	大学名	
派遣日	令和4年8月2日(火曜日) 13:40~16:40 ※研修実施要項は別添 1 開会・挨拶 2 アドバイザーによる講演、演習、質疑応答 「外国人児童生徒教育への理解と指導法について」 ～やってみましょう!DLAとJSLカリキュラム～ 3 閉会・挨拶				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> 派遣 / <input type="radio"/> 遠隔				
派遣場所	戸出コミュニティセンター (富山県高岡市戸出町二丁目13番4号)				
アドバイザー氏名	群馬県大泉町立南小学校 教諭 市川 昭彦 氏				
相談者	高岡市教育委員会・高岡市教育センター				
相談内容	○教職員研修の講師を希望 ○指導助言の対象者：高岡市立学校教員等 各校1名ずつ計37名参加 ○研修について 研修名：外国人児童生徒教育研修会 趣旨：外国人児童生徒の日本語の能力を把握するためのアセスメントについて学ぶとともに、個々に対応できる指導力の向上を図る。 <現状> ・外国人児童生徒の日本語能力を把握できないまま指導している場合もあり、実態に応じた手立てが難しい。 ・日本語を理解できない保護者の場合、意思疎通が難しく、学校と家庭との連携をどのように図るのか、工夫が必要である。 ・各教員が、外国人児童生徒の日本語能力や学力を適切に把握し、評価する方法を熟知した上で指導するために、教員の研修を意図的・計画的に進める必要がある。				
派遣者からの指導助言内容	※外国人児童生徒教育についての悩みや質問したこと等について、受講者に前もってアンケートをとり、そのアンケートに答えながら演習を交えて講義を進めていただいたことで、受講者は、より必要感をもって研修することができた。 <研修内容> (1)「外国人児童生徒受け入れの手引き」を基にした現状と課題 (2)AUを用いて日本語による学ぶ力を導き出す。 (3)時間割の組み方と在籍学級との連携について (4)在籍学級でできる支援 (5)JSLカリキュラムについて <指導助言> ・現在そして今後の社会情勢を考えると、外国人児童生徒等の多様性への対応が大切になってくる。そのために、外国人児童生徒の多様な背景等も把握した上で指導方針を決め、個別の指導計画を立てることが必要となる。				

(様式3)

	<ul style="list-style-type: none">・日本語担当教師、在籍学級担任、管理職、専門機関等と連携を図り、組織的に対応するためには、外国人児童生徒についての共通理解や情報共有が大切であり、そのためにDLA等の評価ツールを用いて日本語能力の把握を行う。教師や仲間とコミュニケーションをとるために会話力が大切であり、この会話力が土台となり、読む力、書く力が伸びてくる。会話力を育てるためにも、DLA等での実態把握が大切となる。・時間割は年間の取組を行う上で非常に重要である。また、日本語の力を伸ばすためJSLカリキュラムを活用し、多面的な支援を取り入れることが効果的である。在籍学級担任と連携し、例えば、座席配置等の教室環境の工夫、視覚情報の提示、発問や話し方の工夫、ルビ付き教科書の準備等、児童生徒の実態や発達段階に応じて適切な支援を取り入れる。また、小さな成長でも見取りに努め、認め励ますなどの情意・自律支援も重要である。・教科志向型JSLカリキュラムを取り入れ、日本語による学ぶ力を育むためには、家庭内言語や日本語習得状況、DLA観点別実態調査に加え、学習履歴や単元に関わる既習事項等、学習に関わる実態も把握する必要がある。・日本語による学ぶ力を育むために質問力の育成が重要となる。そこで、AUを用いて日本語による学ぶ力を導き出す。「問いかけの基礎」「理由を考える」「観察」「情報利用」等様々な場面での学びに活用するための日本語の力を身に付ける。・DLAによって日本語能力を把握した上で個別の指導計画を立てること、JSLカリキュラムによる授業展開やAUを活用した発問や指示の工夫等について、学校や保護者、関係機関と連携し、情報共有や共通理解を図り、より効果的な支援をしていくことが大切である。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p><受講者からの意見・感想></p> <ul style="list-style-type: none">・外国人児童生徒のアセスメントや指導法をわかりやすく教えていただいた。先生のお話は、子供たちへの温かい思いがあふれていた。外国人児童生徒はもちろんだが、支援が必要な児童にも通じることがあったので、ぜひ今後活用していきたい。・今回DLAについて学び、児童生徒の日本語能力を測り教員間でしっかりと情報共有することの大切さを学んだ。また、JSLカリキュラムに基づいて、日本語指導が必要な児童の支援について学ぶことができた。・グループ協議では、お互いの悩みについても話すことができた。また、日本語指導を実施する上での留意点を協議できた。自分の指導の仕方を振り返るよい機会となった。 <p><今後の取組等></p> <ul style="list-style-type: none">・研修内容は、受講者がそれぞれの勤務校において伝達講習等で報告し、全教員で共有して、今後の手立てに生かす。・本研修では、より具体的な場面を想定して意見を交流し、自分たちの悩みや対応策についても情報交換することができた。さらにアドバイザーの市川先生にご助言いただいたことで、受講者からの評価も非常に高かった。 <p>今後も外国人児童生徒教育に関して学校現場等の悩みや課題を把握し、それに対応したテーマを設定し、研修を継続していきたい。</p>